きょうと・しじょう
2020 Vol.57

京都四条

●特集グラビア

『都の魁』にみる明治の四条商人

四条からの手紙● 四条繁栄会商店街振興組合理事長 野村 清孝
CLOSE UP MISE● 京都信用金庫 本店
私の四条通り● 公益財団法人 鷹山保存会 山田 純司
京洛墨彩● 嵯峨野
四条昔語り● 滝川 一
夜な夜な彷徨う鎧武者の亡霊とまち歩きのすすめ

CONTENTS

京都四条 2020

四条からの手紙　安心・安全な四条のまちづくりのために　2

■特集グラビア
『都の魁』にみる明治の四条商人　3~10

CLOSE UP MISE　地域の人々を全力で応援するために一人ひとりが考え、行動する金融機関へ　京都信用金庫 本店　11~13

コラム・京おんなは知っている、ヒミツの…　コロナ時代に必要な能力とは?　赤城加奈乃　14~15

京都知れば知るほど　京の食文化—鰻　16~17

私の四条通り　見えない力に導かれめざすは鷹山復興と196年ぶりの本格巡行　公益財団法人 鷹山保存会 理事長 山田純司　18~21

京洛墨彩　嵯峨野　22~23

コラム四条　コロナ禍でひとつ、かしこうならんと・・・・ニューノーマル(New Normal)どすえ。　京野 優女　24~25

京都漫歩　本能寺の変　26

四条の道具　漆黒に際立つ茶葉の色とかたち。品を検分し、質を見定める「拝見盆」。　福寿園の「拝見盆」　27~29

四条昔語り　夜な夜な彷徨う鎧武者の亡霊と、まち歩きのすすめ　滝川 一　30~31

四条問わず語り　モットーは明るく前向きに／歴史と“ご近所づきあい”する商店街　32~33

おこしやす 京の歳時記　34~35

歌舞伎コラム　『時今也桔梗旗揚』　36

PRESENT FOR YOU　37

PHOTO MUSEUM 写真で見る懐かしの四条　市民が集い、憩うた「円山公園」の乗馬場とラジオ塔　38~39

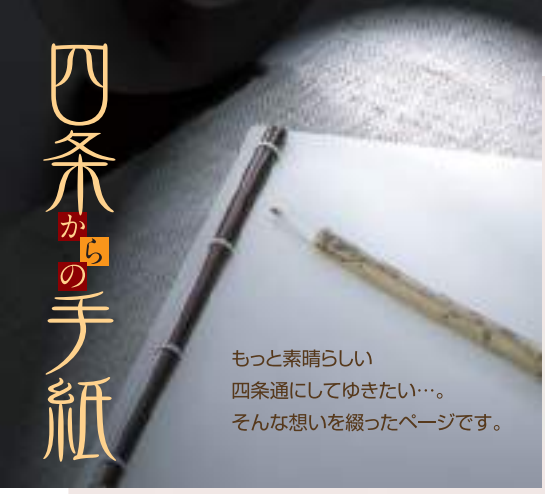
おもてなし百彩　40~42

インフォメーション四条　43

四条界隈マップ・四条繁栄会加盟店　44~47

表紙／四条大橋
明治7年(1874年)に架け替えられた四条大橋。橋脚や欄干は鉄製で、8カ所に街灯が取り付けられており、明治維新の象徴として人々に親しまれていました。写真は橋の西詰から東山を眺めた風景。橋の両脇に電柱があることから、京都電灯会社が営業を開始した明治22年以降の撮影と考えられる(絵葉書資料館蔵)。

四条繁栄会商店街振興組合
ホームページ https://www.kyoto-shijo.or.jp
E-mail office@kyoto-shijo.or.jp



安心・安全な四条のまちづくりのために

四条繁栄会商店街振興組合 理事長　野村 清孝

はじめに、新型コロナウイルス感染症に罹患された方、ご家族・関係者の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。また、治療や感染拡大の防止を担い、日々闘い続けておられる医療従事者の皆様にこの場をお借りして御礼をお伝えしたいと思います。

例年、祇園祭に先駆けて6月15日に発行しております本誌ですが、緊急事態宣言の発令、また山鉾行事等の中止を受け、発刊を延期させていただきました。いつもお手にとっていただき、楽しみにお待ちいただいていた皆様にはお詫びを申し上げますとともに、再編集し改めてお届けさせていただきます。

新型肺炎の世界的な広がりを受け、冬の終わりごろから外国人観光客の方々の足が日本、そして京都のまちから遠のきはじめ、4月18日以後は自粛要請を受けて、シャッターを下ろす店舗も散見されました。四条通は長年ここで商売を営んできた私たちですら、これまで見たことがないような閑散とした姿となりました。

四条繁栄会では、お客様と店舗従業員の健康と安全を守るべく、当初品薄だったマスクを組合員に無償配布するほか、事務局にアルコール消毒液を備蓄し、途切れなく行きわたるよう努めました。また、アフターコロナの事業継続に向けた環境整備にもいち早く取り組み、行政に対しても、他の団体等と手を結び、補助金や給付金、休業補償や税制措置、相談窓口の設置など、一刻も早く支援策が整備されるよう断続的に要請を行ってまいりました。行政機関に任せきりにするのではなく、組合事務局を通して的確な支援策の案内ができるよう、労務管理の専門家にアドバイスをいただきながら指針を定めました。各店頭での感染防止対策についても、多くのお客様がご理解くださり、また組合員の皆様が冷静に対処くださったことに改めて感謝申し上げます。

多くの方々のご協力により、四条通にはにぎわいが戻りつつあります。今年8月には、インバウンドを含めた昨年の通行量に対し65%まで回復し、気は抜けないものの、少し胸をなでおろしているところです。

流行の収束がまだまだ見えないなか、この新たな環境に適応したまちづくりが求められています。にぎわいがあってこその商店街、安心・安全にお買い物を楽しんでいただき、途切れることなく店が商いを続けていけるよう、私どもも努力してまいる所存です。どうか引き続いてのご協力、ご愛顧を何卒よろしくお願い申し上げます。

特集
グラビア

『都の魁（さきがけ）』にみる 明治の四条商人

明治十六年（一八八三年）に出版された『都の魁』は、
京都の商工業者を紹介する買い物ガイドブックです。
商家の店頭風景や作業場のようす
商品などが銅版彫刻で描かれ
四条界隈の店々も数多く掲載されています。
折しも京都のまちは、幕末の動乱や
東京遷都の打撃から立ち上がろうと奮起していた時代。
新型コロナウイルスの影響により経済の低迷が懸念されるいま
本に描かれたにぎわいから先人たちの不屈の精神を読み解きます。

『都の魁』（京都府立京都学・歴彩館アーカイブより）

禍難を乗り越え、新しい京都へ

『都の魁』の巻頭には、見開きで大きく「京都勧業場」の絵図が描かれています。ここは明治4年（1871年）に京都の近代化政策の一つとして河原町二条下ルの長州藩邸趾地に建てられたもので、産業政策と技術開発の両面から経済振興を担っていました。新しい京都の象徴として、巻頭を飾るのにふさわしいといえるでしょう。

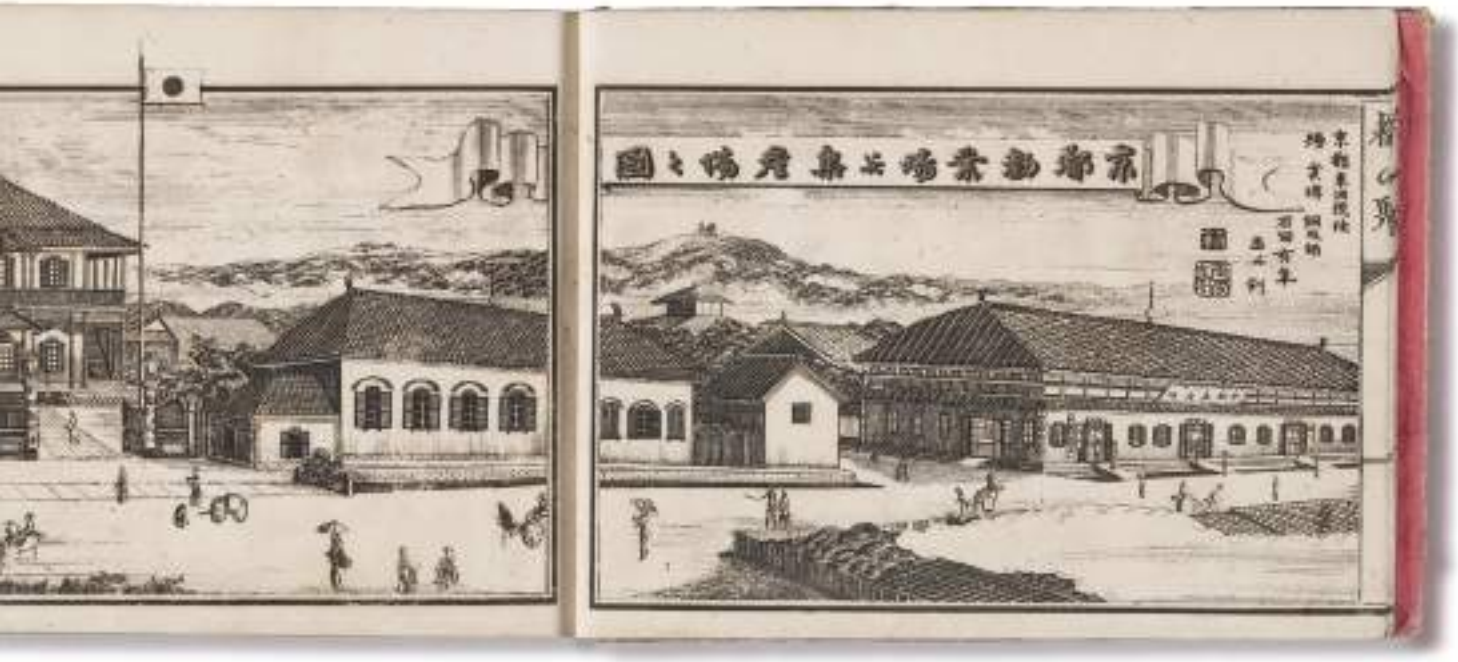
遡れば幕末からの動乱は、京都のまちを存亡の危機にまで追い込みました。とくに東京への遷都は京の人々にとってまさに青天の霹靂。市中の動揺があまりにも激しいため、新政府はあくまでも「天皇の東行」であるとし、なしくずし的に遷都を実行に移しました。

公家や有力商人たちが天皇のあとを追ったことで、京都の人口は維新前の35万人から20万人近くまで急減し、取引相手を失った商工業者たちはたちまち窮地に陥ります。一刻も早い復興をめざして産業や技術、公共事業、教育などあらゆる面で近代化が推し進められ、それらは「京都策」と呼ばれました。

前述の勧業場の開設のほか、技術開発を担う舎密（せいみ）局の設置、租税の免除や基金の設立、博覧会の開催など次々に策が実行に移されます。欧米からは新たな技術とともに西洋文化ももたらされ、商品や建築などに取り入れられていきました。商工業者たちも徐々に活気づき、まちも賑わいを取り戻していったのでした。

東山のふもとには外国人向けのホテルが建ち並んでいた。写真の也阿弥ホテルは、円山公園の東にあり、『都の魁』にも登場している（写真は絵葉書資料館蔵）

SPECIAL EDITION



『都の魁』の巻頭に描かれた京都勧業場。のちに民間へ払い下げられ、京都ホテル（現在の京都ホテルオークラ）として開業した。

描き出された四条のにぎわい

高瀬川に架かる「四条小橋」は、四条のまちのにぎわいを象徴する場所の一つだった。料理屋が建ち並ぶ通りを多くの人が行き交うようすが描かれている。

約2200の店舗と職商人（しょくあきんど）を
いろは順に184の職種で分類し収録した『都の魁』。
古くから京都随一のにぎわいを誇る
四条のまちからも掲載されている店は多く、
現在、四条繁栄会がある界隈だけを数えても
150を優に超える商店が紹介されています。
描かれた絵図を並べてみると
当時の四条のまちの活気が伝わってくるようです。

【①道具商】今井定七

【②菓子商】木城平七

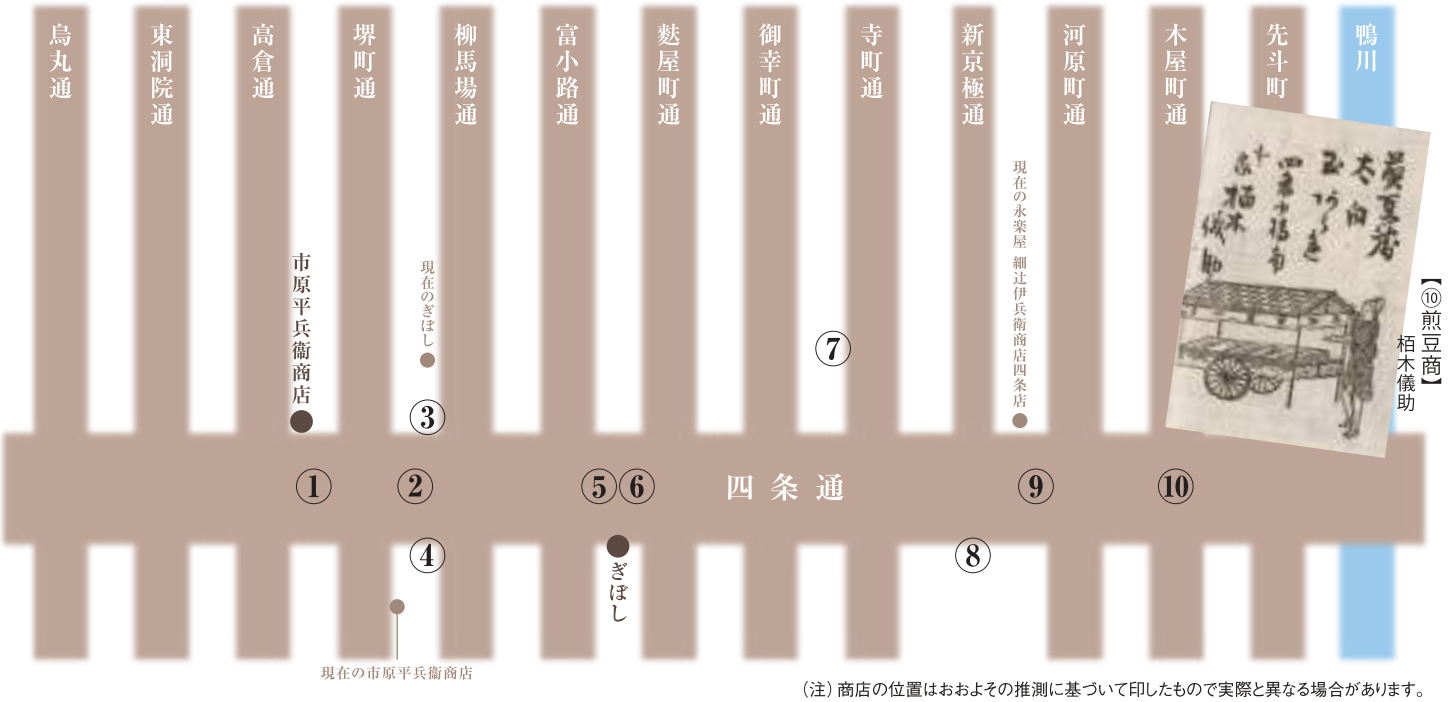
【③糸商】児嶋定七

【④白粉商】藤本茂兵衛

【⑤錫細工】原田伊右衛門

【⑥人形商】吉田喜三郎

『都の魁』出版当時の四条のまち



【⑩煎豆商】栢木儀助

（注）商店の位置はおおよその推測に基づいて印したもので実際と異なる場合があります。

【⑦印判師】龍雲堂文造

【⑧薬商】石田宗太郎

【⑨足袋商】村林幸七

いまに受け継ぐ先人たちの心

『都の魁』に登場する商工業者のなかには
いまも暖簾を掲げ続ける店がいくつもあります。
出版から百三十年を経たいま、
伝統がどのように受け継がれているのか、
四条にある三軒の店を訪ねました。

代ごとに新たな箸を考案

御箸司　市原平兵衛商店

明和元年（1764年）創業の禁裏御用御箸司。堺町通四条下ルにある店舗には常時400種類以上の箸が並びます。箸の素材は竹や杉、欅、桜などさまざまで、木の種類ごとに違う職方が製作し、そこに塗りや蒔絵を施すのもまたそれぞれ専門の職方の手によります。同店はそれらを取り仕切る、いわばディレクターとして多彩な箸をつくり出してきました。市原家には、一代に逸品の新しい箸を考案せよという家訓があり、先代は建材として使われてきた煤竹を用い、丈夫で反りにくい「みやこばし」を生み出しました。現当主で八代目の市原高さんは、生育3年目の京都の若竹を使った「平安箸」を考案。細く仕上げた箸先と強い弾力性、手元に塗った漆の感触が特徴的です。現状に甘んじず、代々重ねてきた創意工夫が、暖簾を守ってきたといえるでしょう。

『都の魁』では、はし商の部に「市原平兵衛」（上）、木綿商の部に「永楽屋　細辻伊兵衛」（下）、昆布商の部に「ぎぼし昆布店」の名がある。

埋もれていた手ぬぐいを復刻

永樂屋　細辻伊兵衛商店

現在、四条通をはじめ各地で手ぬぐいや風呂敷のブランドショップを展開する永樂屋。その歴史は、織田信長の御用商人として活躍したことにはじまり、屋号と細辻の姓を拝領したと伝わっています。その後、元和元年（1615年）に綿布商として創業し、『都の魁』が出版されたころは、三条東洞院に本拠を構え、大いに商勢を拡張していました。昭和初期には毎年100種の手ぬぐいを染める「百いろ会」が人気を博し、趣味の集まりや収集家の交換会が全国に広がっていたといいます。戦後、経済成長期を経て、それらは忘れられていましたが、現当主の十四世細辻伊兵衛さんが蔵の整理中に1万点もの手ぬぐいコレクションを発見。そのモダンで斬新なデザインに惹かれ最新の染色加工技術で復刻しました。コロナ禍には、手ぬぐいで簡単に作れるマスクも紹介し、ますます注目を集めています。

変わらずにいることの難しさ

京昆布本舗　ぎぼし

はじめて口にした人は、一様に目を丸くして驚くほど、軽い口どけと深く上品な旨味。ぎぼしのとろろ昆布は、いまではほとんど見ることが少なくなった手削りの味を守り続けています。昆布を幅広に削るおぼろ昆布の職人はまだまたたくさんいますが、とろろ昆布を手で削り出せる職人は数えるほどしかおらず、ここならではの味を求めて遠方から四条柳馬場の店へ足を運ぶ人もあるほど。風味が変わらないうちに食べたいと、少量ずつこまめに買いに訪れる常連さんが多いといいます。昆布で籠をつくる細工昆布も職人が絶えて入手できなくなり、代えの利かない神事用の細工物などは、必要に迫られ当主の上田昌太郎さん自らが作らねばならないこともあるとか。「変わらずにいること」は年を追うごとに難しくなり、同じ悩みを抱える老舗も多いはず、と上田さんは話してくれました。

不屈の精神をいま再び

コロナ禍による緊急事態宣言で
一時閑散とした四条通はいま
再び活気を取り戻しつつあります。
感染への備えはもちろんのこと
新しい暮らし、新しいビジネスのあり方、
そして新しいまちづくりの模索は
はじまっています。
先人たちが大きな禍いに負けず
まちを盛り立て、発展させてきたように
私たちもまた前に進むときです。

料理屋が建ち並ぶ四条大橋西詰。

『都の魁』発刊前後の京都の主な出来事

1864年（元治元年）	禁門の変（蛤御門の変）
1867年（慶応３年）	二条城にて大政奉還
1868年（明治元年）	明治天皇、江戸行幸
1869年（明治２年）	明治天皇東行（東京遷都） 日本初の小学校（のちの柳池小学校）開校
1870年（明治３年）	京都府が舎密局を開設
1871年（明治４年）	京都府が勧業場を開設 京都博覧会を西本願寺で開催
1872年（明治５年）	新京極が開かれる
1874年（明治７年）	四条大橋が鉄製に架け替えられる
1877年（明治10年）	京都停車場（京都駅）開業
1881年（明治14年）	北垣国道が京都府知事に 琵琶湖疏水を構想
1882年（明治15年）	京都商工会議所発足
1883年（明治16年）	『都の魁』発刊
1884年（明治17年）	第13回京都博覧会で 初めて電気燈を点灯
1885年（明治18年）	琵琶湖疏水起工式
1895年（明治28年）	日本初の市街電車開業

CLOSE UP MISE Vol.55

地域の人々を全力で応援するために 一人ひとりが考え、行動する金融機関へ

アーケードが連なる四条通で、ひときわ目をひくガラス張りの外観。

京都信用金庫　本店

まちの暮らしや産業はもちろん 京の伝統を守る取り組みも

四条通に面して、地上から3フロアの高さまで設けられたガラス張りのファサード。一歩中へ入ると明るい吹き抜けの大空間が広がり、地域に向けて開かれた金融機関であることを象徴しているかのようです。

京都の人々から「京信さん」の名で親しみを込めて呼ばれる京都信用金庫。その本店は四条通柳馬場にあり、地域の人々、まちの商店や企業にとって頼れる存在としておなじみになっています。

新型コロナウイルスの感染拡大に際しても、臨時相談窓口の設置や緊急対策金融商品の販売、国からの保証料補助、利子補給などについてのアドバイスなど、いち早くさまざまな対策を打ち出してきました。長年にわたり培ってきた「雨の日に一本でも多くの傘を貸す」金融機関としての姿勢を、さらに前面に打ち出して地域の人々の応援を続けています。

とくにこの夏、祇園祭の山鉾巡行が中止となるなかで、京信が2017年に立ち上げたクラウドファンディングプロジェクトが再び注目を集めました。巡行がなくなっても各山鉾町では鉾の維持保全や修繕場所の確保、粽の製造などに費用が発生します。その負担が今後の祭の運営を圧迫するような事態になることはどうしても避けねばなりません。インターネット等を通じて広く資金を募ることができるこの仕組みにたくさんの賛同が寄せられ、多くの資金を集めることができました。地域の伝統文化に目を向け、それを守るために取り組んできたことが、コロナ禍に際し大きな役割を果たしたのです。

「お客様と交流する機会を企画するのは、私たち自身のやりがいにもつながっています」と営業支援部部長代理で接客チーフを務める野口真衣さん。

ロビーを活用し コンサートや体験セミナーを企画

京信の前身である「有限責任京都繁栄信用組合」が設立されたのは大正12年（1923年）のこと。戦後の昭和26年（1951年）に信用金庫の事業免許を受け「京都信用金庫」が発足しました。

本店が四条通沿いに移ったのは昭和39年（1964年）で、平成5年（1993年）12月、現在の場所に本店ビルが完成しています。

館内には大型のコミュニティーホールがあり、その名の通り地域の人々にも活用されてきました。地元商店街である四条繁栄会でも、これまでに数々の式典や理事会などをここを借りて行っており、京信もまた商店街行事などへの協力や祇園祭のごみゼロ活動へ取り組んでいるのをはじめ「地元町内会にも参加し、本店長や私も町内の慰安旅行へ参加したりして“ご近所づきあい”もさせていただいているんですよ」とは営業支援部部長の山村一代さん。現在はコロナの影響で開催を延期していますが、毎年行われるロビーコンサートはいつも200～300人を動員する盛況ぶり。本店だけでなく、各支店でもロビーを活用した作品展示や地域の人々を招いた趣味の体験セミナー、子育て世代へのライフプランセミナーも開催しており、職員全員で企画し実行できる体制づくりに力を入れているといいます。

地域の人々にも開放し、活用されているコミュニティーホール。

最新の映像・音響設備をもつ「クリエイティブ・コモンズ」。

店舗に親しみをもってもらうことで気軽に相談できる関係が生まれ、そのことが家族の暮らしや事業の困りごとの解決につながることもあります。企業と企業、人と技術などをつなぐ「ビジネスマッチング」事業も行っており、成功事例などは随時ホームページや機関紙『Cスクエア』に掲載。一人でも多くの人の幸せや成功につながるよう取り組みに工夫を重ねています。

繁華街という立地を最大限に生かし 人と人を結ぶ場へ

今年3月、本店の四条通に面した1階のスペースに「スターバックス コーヒー 京都信用金庫本店ビル店」がオープンし、金融機関とカフェという取り合わせが話題になりました。以前は外貨の両替コーナーとして使われていましたが、キャッシュレス決済の普及で利用が減少していたことを受け、カフェスペースとして有効活用することになったのだ

とか。「“イノベーションはカフェから起こる”ともいわれるように、出会いや語らいの場であるカフェと私どもの事業は実はとても相性がいいように思えます」と山村さん。

四条繁栄会にとっても、「歩いて楽しいまち」をめざす一環として、金融機関等に通り沿いのフロアをテナント活用し、賑わいの創出に協力いただけるよう要請してきたこともあり、今回のカフェ開設はその思いに呼応する取り組みだと歓迎の声が上がっています。

今回の改装ではカフェと京信のロビースペースを明確に分けることはせず、ひと連なりに見えるよう床も全面的に張り替えて一体感と親和性をもたせたといいます。スターバックス コーヒーの営業時間に合わせて、ATMの利用時間も朝7時から夜11時まで広げるなど、柔軟な発想が生まれるのも、まちに目を向け、ともに歩もうとする姿勢があるからこそ。繁華街という立地を生かした挑戦はこれからも続いていきそうです。

今年3月、本店内にオープンした「スターバックス コーヒー 京都信用金庫本店ビル店」。

吹き抜けの大空間をもつロビーは、コンサートホールとして活用されることも。

四条通に面したカフェの入り口は、
格子戸を模した和モダンなデザイン。

京都信用金庫 本店

京都市下京区四条通
柳馬場東入ル立売東町7番地
TEL.075-211-2111
【URL】https://www.kyoto-shinkin.co.jp/

COLUMN

京おんなは知っている、ヒミツの…

コロナ時代に必要

「いつコロナが収束するのか?」誰もが知りたいけれど、これは誰にも分からない。そもそも感染症が収束したことを宣言することは難しい。そのため、多くの人が従来からあるゴール設定の変更を迫られている。しかし、本当に大切なのは複雑で変動性の高い時代でも、ゴールを変えることなく方法を変化させられる「対応力」だ。そして、この能力は多様な人材と関わることで育まれる。なぜならゴールを変えずにそれを実現する方法を考え出す「対応力」は、どれだけ多くの違った選択肢を増やせるかにかかっているからだ。

私が代表を務める「京大起業部インターナショナル」という京大生と京大卒業生からなる任意団体がある。設立してまだ1年ほどではあるが、起業やグローバルビジネスに関心のある世界33か国の出身者、約170名が、経営、工学、教育、法律、情報などの専攻の垣根を超えて所属するオンライン・コミュニティだ。ここに所属するメンバーの5人と共にテクノロジーを使って社会問題を解決する糸口を探る「ジャパン・ハッカソン」を実行委員長として企画運営し、今年の6月に開催した。だが、開催まではかなり険しい道のりであった。

まず、アイデアはあるのだが肝心の運営資金も、人脈もなかった。「ハッカソン」とは、「ハック(テクノロジー)」と「マラソン」を掛け合わせた造語で、世界では未来の起業家を輩出する貴重な場にもなっているのだが、日本ではあまり知られておらず、英語での開催を決めた時点で、多くの日本人が難色を示した。しかも、開催は3日間、昼夜を問わずに24時間ぶっ通しで行われる。オリンピックイヤーに、3日間も宿

な能力とは？

泊なしで会場を提供してくれる場所を見つけるのは困難を極めた。

それでも、あれこれ駆けずり回っている中で、京都府が共催者として名乗りを上げてくれ、資金の目途もついてきた。会場も決まり、このイベントの準備が順調に進み始めた直後、コロナ禍でリアルイベントの開催ができなくなった。だが、私自身がオンラインビジネスをしていることもあり、オンラインで開催することをすぐに決断。さらに、オンラインに変更したことでこれまでは物理的に不可能だった審査員やメンター、そして参加者たちを世界各国から集めることが可能になった。

もちろん、運営には時差を考慮するなど新しいチャレンジも多々あった。国外にいるテクニカルチームのメンバーやボランティア・スタッフとは、最初から最後まで、オンラインでしか打ち合わせができず、直接会うことは一度も叶わなかった。しかし、チームのモチベーションを保ち続けることができ、結果として、参加者は当初予定の4倍以上となり、世界40か国から260人という国際イベントとなった。また、メンターや審査員には、グローバル企業のGoogle、Dropbox、SAP、国内上場企業のクラウドワークスやマネーフォワードなど、卓越した人々が協力してくれた。さらに、地元の京都新聞だけでなく、佐賀新聞や東奥日報といった全国の地方新聞、共同通信社のオンラインニュース、NHKから中東アルジャジーラTVまで、多くのメディアにも取り上げられ大成功を収めた。私はこの経験から、「不可能だ」と言われているオンライン上のみでも、十分に人と人の信頼関係を作ることはできると確信した。

ではなぜイベントが大成功し、チームは信頼関係を育めたのか？私が出した答えは、運営チームのメンバーが多国籍出身者から構成されていたということ。多くの違った視点、違ったアイデア、違ったやり方を持ち寄ることで選択肢が増え、想定外の出来事があったとしても、乗り越えるための新たな選択肢を作り出すことができたからだ。

今、日本に足りないのは、このような多国籍の人たちと協働する機会である。京都は観光の街として外国人と日常的に関わっていても、一緒に何かを目指すような経験が圧倒的に不足している。これでは、変化に対応するための選択肢が限られてしまう。様々な選択肢を持ち、不確実性の高い未来への「対応力」を鍛えるためにも、海外の人たちと関わることがこれまで以上に重要なのだ。ヴァーチャルリアリティなどを積極的に使用するようになれば、オンラインのみでも信頼関係を育むことがより取り組みやすくなるだろう。京都には、ぜひその先駆者になってほしいと願う。

文：赤城加奈乃（あかぎかなの）
イラスト：たつみ まさる

京の食文化

鰻

世界一の鰻好きと言われる日本人。
全世界で捕獲・養殖される鰻のおよそ七割が
日本人の胃袋におさまるといわれるほどで
食べ方も独自に発達させてきました。
地域によって、捌き方、焼き方などの調理法も異なります。
「土用の丑の日」に食べる習慣など
夏のスタミナ食としても親しまれていますが
意外にも天然の鰻の旬は晩秋から冬。
寒さや流行り病に負けないよう
いまこそ楽しみたい滋味です。

タレで香ばしく焼き上げた「蒲焼」を
ごはんにのせて味わう鰻重。奥は、
鰻そのものの味をしっかり楽しめる
「白焼」。こちらはわさび醤油で。

地域によって異なる鰻包丁

「京割」

「大阪割」

「江戸割」

鰻と日本人の関わりは古く、縄文時代の貝塚からは鰻の骨が見つかっています。「蒲焼」という言葉は、鎌倉時代の応永6年（1399年）、京都吉田神社の社家の記録に登場していますが、現代の調理法とは大きく異なっていました。このころの蒲焼はブツ切の鰻を串に刺して焼いただけのもので、その姿が植物の「蒲（がま）の穂」に似ていることから名がついたという説があります。世界的にも鰻はブツ切で調理されることが多く、「開いて骨を取り、焼く」という日本ならではの巧みな工夫が日本人を大の鰻好きにしたと言えるかもしれません。

鰻を開く調理法は江戸初期までに上方で発祥し、中期以降に江戸でも広まったといわれています。17世紀末の浮世草紙『好色産毛』には、四条河原の夕涼みの絵に露店の鰻売りが描かれ、その行燈に「鰻さき（割き）うり」「同かばやき」の文字が見えます。

上方と江戸の調理法の違いで有名なのは、上方が「腹」から捌き、江戸では「背」を割くこと。捌き方によって使う包丁も地域ごとに進化し、京都、大阪、名古屋でも形状が異なります。武士のまち江戸では「切腹」を嫌うというのが通説ですが、江戸では「蒸す」工程を経るため、腹開きでは焼く際に崩れてしまうからともいわれます。“せっかち”が多い江戸では客にすぐ鰻を出せるよう、あらかじめ蒸しておき、注文に応じて焼く方法が広まりました。焼きが短時間なので串には竹が用いられます。一方、京都ではじっくり時間をかけてパリっと焼き上げるため、金串を用います。江戸よりも大振りの鰻が好まれ、宇治川が名産地であることから「宇治丸」が鰻の別称となったほどです。

四条大橋にほど近い鰻専門店「祇をん 松乃」は、京の店ながら鰻を背開きして蒸します。「創業者は私の祖母になります。南座さんのそばということもあり幕間弁当やお土産に冷めても柔らかくお召し上がりいただけるよう工夫しています。タレは京都好みのコクと香ばしさを生かし、地元の皆様や初めてのお客様など幅広くご満足いただけるよう吟味しております」と社長の松野緑さん。おいしさへの飽くなき探求が、このまちならではの味の伝統を生み出したといえそうです。

「串打ち三年、裂き（割き）八年、焼きは一生」という言葉があるほど、鰻の味は職人の腕次第で大きく左右されるという。

〈取材・資料提供〉

祇をん 松乃
京都市東山区祇園南座東四軒目
TEL.075-561-2786

源金吉 八木庖丁店
京都市中京区堺町通四条上ル
TEL.075-211-1833

見えない力に導かれ めざすは鷹山復興と 一九六年ぶりの本格巡行

公益財団法人　鷹山保存会
理事長
山田 純司さん

2019年の後祭。鷹山は唐櫃巡行で参加した。

往時の鷹山の復元図
作図：中川未子〈よろずでざいん〉

コロナ禍での「榊巡行」

新型コロナウイルスの影響で今年の祇園祭は山鉾巡行が中止になり、なんともさみしい夏になりました。鷹山は、200年近くにわたって「休み山」となっており、巡行していませんでしたが、2022年の本格的な巡行への復帰をめざしています。今年の後祭では昨年に続いて唐櫃（からびつ）で巡行する予定だったところ、各山鉾の代表者が榊を持って巡行するかたちになり、お囃子もなし、宵山もなしのお祭りになりました。そんななか、会所で授与品の販売を行った際に、密を避けながらたくさんの方がお越しくださり、復興を応援していただけたのはありがたいことでした。

鷹山が休み山になったのは、文政9年（1826年）の巡行中、暴風雨で懸装品（けんそうひん）を損傷して以来のことです。それまでにも応仁の乱、宝永の大火、天明の大火という3度の火災に遭っており、被災のたびに町内の人々が力をあわせて再建していました。むしろ再建するたび、より豪華にバージョンアップしていったようで、最後は曳き山の最終形態ともいえる大屋根付きの山だったといわれています。文政9年以降は再建の機会に恵まれないまま町家で「居祭（いまつり）」を行っていましたが、元治元年の大火では3体のご神体は難を逃れたものの、懸装品や山本体まで失ってしまい、さらに復興が遠のいてしまったようです。

私は鷹山の町内である衣棚町に生まれ、10歳までそこで育ちました。家業である呉服商は引き続き町内にありましたので、左京へ転居した後も祇園祭に触れる機会は多く、とくに鉾に上がって巡行できる囃子方はあこがれの的でした。子どもの私にとって、巡行日が公休扱いになるうえ、大人とそろいの浴衣を着て女の子たちにも一目置かれる姿はとてもうらやましく、あこがれが強い分だけ、自分にゆかりのある鷹山が休み山であるのが悔しかったものでした。

「ご神体に呼ばれているかのような不思議な御縁が次々とつながる」と山田理事長。

たくさんの力を借りて

鷹山の再建話は何度かあったようで、私も以前から興味をもっていました。しかし父は常々私に「休み山のままにしておけ、関わるな」と言い、復活すれば財を失い、七月は一日たりとも商売にならず、末代まで恨まれることになる、と、まさに触らぬ神に祟りなしといった態でした。父たちの世代にとって祭のことは町内で賄うというのが当たり前でしたので、2億近い費用が必要といわれる山の再建が叶わなかったのも無理のないことだったかもしれません。

そんななか、私はひょんなことから鷹山に関わることになります。会社近くの自転車屋さんに修理を頼みに行ったところ、ご主人の八田章さんがどなたかと話し込んでいました。見ればお相手は西村吉右衛門さんで、江戸期に鷹山の運営を担っていた「千吉（ちきち）」のご当代です。一方の八田さんは町内の長老的な存在で、鷹山再建を相談されているさなかへ偶然私が訪ねたのでした。私にとっても鷹山が巡行する姿は幼いころからの夢であり、またリタイア後は鷹山に関わることをライフワークにしたいと密かに考えていたこともあって、計画は少し早まりますが、その場で「お手伝いさせてください」とお仲間に加えていただきました。

もう一人、北観音山の囃子方で町内で寿司店を営む西村健吾くんの参加を得て、「鷹山の歴史と未来を語る会」を発足させたのが2012年。その活動と並行して、2014年3月から健吾くんを中心とした8人が囃子方の活動をはじめます。笛は自腹で購入、鉦（かね）も太鼓もほかの山鉾からの借り物でしたが、その年の祇園祭のころには20人にまでメンバーが増えていました。そして、そのなかに弁護士と公認会計士がいたことが、私たちの活動を大きく加速させます。2015年5月に一般財団法人鷹山保存会を設立し、さらに翌1月には公益財団法人の認定を受けることができたのです。これは普通あり得ないスピードだそうで、NPO法人の設立もおぼつかなかった私たちにとって幸運な出会いでした。公財になれば寄付に関するハードルも下がり、復興への道筋も具体的に見えてきます。当初は巡行休止から200年の節目にあたる2026年を復活の目標としており、それすらも難しいのでは…と懸念していましたが、計画を前倒し、2022年の巡行復帰を宣言するに至りました。

四条御旅所前でのお囃子のようす。

人の御縁が山を動かす

自転車の修理をきっかけに鷹山に関わることになった私を筆頭に、その後も不思議な御縁は続きました。池田有爾くんは数寄屋造りで知られる安井杢工務店の社員。メンバーに頼まれて太鼓の台を作りに来たところ、お囃子にハマってしまい、いまは山の再建に向けて大工方の棟梁を引き受けてくれています。囃子方のリーダーである健吾くんに至っては、30年以上関わってきた北観音山を辞し、まだ復興なるかもわからなかったころに鷹山一本で行くと宣言。私にとっては大きなプレッシャーになりましたが、考えてみれば健吾くんは鷹山の町内で生まれ、暮らし、働く昔ながらの生粋の町衆。長年お祭りに関わり、しきたりや手順を心得ている彼は、何もかもがはじめてづくしの私たちにとって貴重な存在です。これは「ご神体が復活に向けて秘蔵っ子を長期計画で修行に出していたのではないか?」と私たちの間ではまことしやかにささやかれています。

鷹山は懸装品のすべてを失っており、普通であれば復活はかなり困難を極めたはずです。ところが千吉さんが膨大な文献を保管してくださっていたこともあり、専門家のお力を借りて基本設計を定めることができました。また、重さ10トンを超える山を造るためには、それに適した巨木を調達せねばならず、私たちにとっては高いハードルでした。しかし、ほかの山鉾町さんのご厚意を受け、部材を新調されるタイミングにあわせて順次提供していただくことになりました。櫓は菊水鉾さん、車輪は船鉾さん、2本の石持は放下鉾さんのものを使うことが決まっています。復興に向けた寄付も引き続きお願いしていく予定で、大きな山を動かすのはやはり人の御縁だと感じています。

宵山の粽売り。御神体にちなみ、鷹や犬など愛らしいキャラクターグッズも授与品に登場。

発起人である八田さんは京都を離れられ、吉右衛門さんも町内から住まいを移されていることもあり、力不足ながらいまは私が理事長を務めさせていただいています。しかし、考えてみれば役付では鉾に乗って巡行することは叶いません。遅ればせながらそれに気づき、いまは囃子方の末席に加えてもらっています。囃子方から理事になる人はいても、理事長から囃子方になる人はそうそういないと笑われていますが、鷹山が巡行に復帰し、無事、都大路へ羽ばたくことができたら、長年の夢を叶えてみたいと思っているところです。〈談〉

鷹山の会所飾り。御神体人形は左から「鷹遣(たかつかい)」、「樽負(たるおい)」「犬遣(いぬつかい)」。

PROFILE

山田 純司 (やまだ じゅんじ)

1954年、京都市生まれ。1976年に上智大学経済学部を卒業後、インテリア商社勤務を経て、1980年山音株式会社に入社。2005年に社長へ就任し、2020年より会長。2012年「鷹山の歴史と未来を語る会」の旗揚げを皮切りに、2015年「一般財団法人鷹山保存会」の設立とともに理事長に就任、翌年公益財団法人化。2022年、山鉾巡行への本格復帰に向けて活動を続けている。

KYORAKU-BOKUSAI

京洛墨彩 2020

孝【コウ】

祖先・親などを養う。ひいて、親に尽くす意を表わす。
敬愛の真心をもって父母に仕える。

静けさを吸い込むように
深深と降り積もる雪。
底冷えのなか、
天をさして伸びる
瑞々しい青の群れは
孝の思いが起こした奇跡を
名に冠して、時を待つ。
母なる大地にかえるまで
その役を尽くして。

中国・三国時代の呉の国に母思いの青年がおりました。病に伏す母のため、好物の筍を求めて山に分け入りますが、季節は冬。雪に覆われた竹林には芽吹きの萌(きざ)しもありません。思わず天を仰いだ瞳から、はらり、はらりと涙が落ちると、なんとそこから雪が解け筍が頭をのぞかせたのでした。

孝行息子の名は孟宗(もうそう)。中国二十四孝の一人に数えられる人物で、その名を冠した竹は大陸から海を渡り、平安初期に洛西の地へもたらされたと伝わります。嵯峨野に広がる竹林もほとんどが孟宗竹。古刹を結ぶ「竹林の道」は趣ある美観で人気を呼び、行き交う人が絶えません。

竹林の美しさもさることながら、竹は古来、身近な暮らしの材でもありました。嵯峨野もかつては産地として知られ、昭和初期には竹刀の全国生産量の90%を占めていたといいます。成長が早く加工しやすい竹は、抗菌性や消臭性に優れていることも相まって、カゴやザル、簾といった日用品のほか、建築資材、玩具などに幅広く用いられてきました。プラスチックなどの素材が普及し、役目の多くを譲ることになると、竹林は手入れされない竹藪へと変わり、各地で景観や環境の悪化が問題になっていきました。

プラスチックごみが及ぼす海洋汚染が深刻化するなか、竹をはじめ自然に還る素材が見直されています。母なる地球にいま何ができるのか、雪の竹林は静かに問いかけます。

嵯峨野

交通／嵐電嵐山本線「嵐山」下車ほか

写真●田口郁明

コラム四条

コロナ禍でひとつ、かしこうならんと……ニューノーマルどすえ。（New Normal）

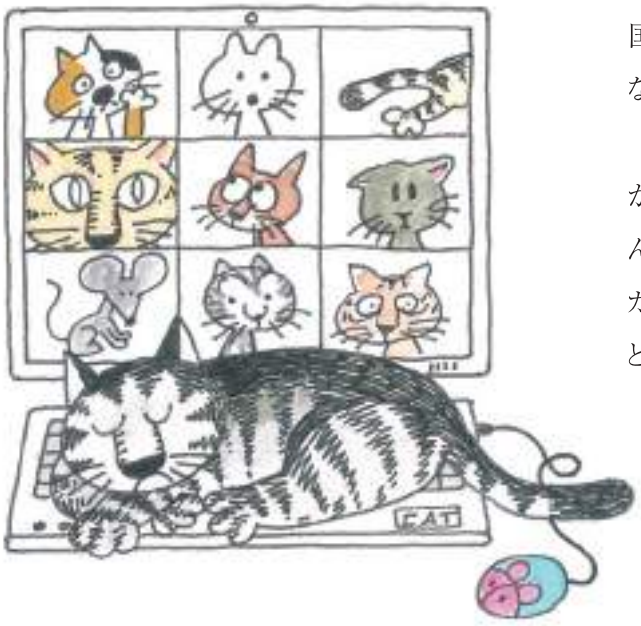
世界の多くの人たちの生命と健康を奪い、経済に深刻な打撃を与えて、私たちの生活を激変させた新型コロナウイルスの大流行。あれだけ多くの観光客であふれていた錦市場や四条通から、人が消えてしもうて、京都の街がゴーストタウンみたいになったとき、この先世界はどうなるんやろか、とほんまに恐怖で震えたんどすえ。

戦中、戦後を生き抜いてきた母も「どうえ、このコロナウイルスでぎょうさん亡くなったはる。戦争より酷い…」と言うてました。手洗い、アルコールなどでのこまめな消毒、外食もテイクアウトに切り替え、できるだけ不要な外出を控え、3密を避ける生活にも少しずつ慣れてきました。この新型コロナウイルスと上手に付き合わんと、あかんのどすやろな。

日本もノーベル賞をたくさんもらわはって、科学の発達した先進国やと思うてたんどすけど、この新型コロナウイルスの大流行で、そうでもない、IT後進国やということがわかったんどす。

医療機関から保健所への新型コロナ感染者の届け出がFAXで行われてたり、国民に10万円を配るのにも時間がかかる国。ほんまに難儀やわ。困ってはるところにお金が届かんと意味ないやおへんか。

持続化給付金や特別定額給付金の支給にまつわるゴタゴタが連日報道されたこともあって、ついに広く世間にバレてしもうたんどす。批判の矛先はマイナンバーカードで、このマイナンバーカードで、特別定額給付金の申請をしたらトラブルが頻発したんどすなあ。マイナンバーカードの普及率は約15%なんやそうどす。



この低い普及率にも関わらずオンライン申請は大混乱。郵送のほうが、効率が良いとまで言われてしもうたんどす。

国の批判ばかりしてても拉致があきまへん。かくいう私も英語が話せるわけでなく、アマゾンでネットショッピングやLINEで友達と長話する程度で、ITのことはさっぱりわからしまへん。タイや中国、韓国の友達の方がインターナショナルで英語が堪能やし、スマホもスイスイ使いこなしたはります。

そやけど、このITを使ったリモートワークや時差出勤など、働き方の変化は環境負荷の少ないライフスタイルをもたらしたと言えますわなあ。

新型コロナウイルスの収束がいまだ見込めない中、世界の動きを元に戻すのではのうて、新しい社会（ニューノーマル）をどのようにして目指すかと言うのが課題やそうどす。

ピンチはチャンス、弱点を強みに変えることどす。デジタル庁もできることやし、1997年に定まった「京都議定書」の後を継ぎ、国際社会全体で温暖化対策を進めていくための礎となるパリ協定を推し進め、地球の温暖化で異常気象が続き、地球が壊れてしまう前に、脱炭素社会へ舵を切ったら、私たちは新しい時代の新しい価値観、安心して暮らせる暮らしと人びとの幸福に貢献する経済システムを手に入れることができるのかもしれまへんなあ。

京野優女（きょうのやしょうめ）

京都漫歩

本能寺の変

●作者プロフィール
辰巳　優（たつみ　まさる）
1951年（昭和26年）京都生まれ
1992年 読売国際漫画大賞優秀賞
1993年 ユーモア広告大賞ビジュアル賞
1994年 飛騨高山漫画フェスタ入賞
1998年 長野五輪四文字熟語漫画最優秀賞

新しい生活様式

織田さん（四十九歳。ベンチャー企業社長）の一日。
午前中、本社（尾張）より全国出張所幹部とリモート会議。
午後より中国地方販路拡大の指揮を執るため京都へ車で移動。
密を避けるため独りで本能寺へチェックイン。
夜は祇園でと思った矢先夕食が届く。
麒麟の出前だと言う。
部下の明智君が
気を利かせたのであろうか？
是非に及ばず受けとった。
変な一日であった。

四条の道具

SHIJO no dougu

四条界隈で商いを営む人たち。
ここには必ずといっていいほど、
自分たちの商品やサービスを誇りある高さに導き、
保つための道具があります。

シリーズ 55

福寿園の「拝見盆」

四条の道 SHIJO no dougu 道具 シリーズ 55

福寿園の「拝見盆」

漆黒に際立つ茶葉の色とかたち。品を検分し、質を見定める「拝見盆」。

紙盆に艶を抑えて黒漆を塗った「拝見盆」。
昭和のはじめごろのもの。

豊かな芳香をただよわせる深い緑の茶葉。それを広げるように盛った器は、手にとってみると拍子抜けするほどに軽い。一見すると陶器か木製に見えるが、張り子のように紙を張り重ねて作った紙盆なのだという。

「茶葉を検品するときに使う拝見盆という道具で、葉の色を検分する際に光が反射しないよう、黒く塗ったものを使います」。そう教えてくれたのは、株式会社福寿園の常務取締役で、四条通にある京都本店の本店長でもある吉永清志さん。拝見盆は重ねて持ち運べるように軽くて扱いやすくつくられ、傷がつけば漆を塗り直して使ったという。とはいえ、陶器のように長持ちするものでもなく、同社に保管されているのは古いものでも昭和のはじめごろのものとか。直径は25センチほどあり、「お茶の品質を確かめるには、ひと摘みだけというわけにはいかず、ある程度の量を器に広げ、色や香り、かたちなどを細部まで確かめます。それには丁度よいサイズなんです」。現在ではより軽くて丈夫な金属製のものが使われているが、大きさや色は変わらない。

福寿園といえば、日本を代表するお茶の製造販売元であり、関西文化学術研究都市に「CHA研究センター」を開設するなど、茶づくりと茶文化の普及を牽引するトップランナーだ。創業は、寛政2年（1790年）、山城国上狛（現京都府木津川市山城町）の福井伊右衛門によって茶商として始まった。上狛といえば、古くは木津川の水運を利用した交通の要衝で、ここに各地から茶が集められ、京や大坂、江戸はもとより全国へ出荷された。明治に入ると、日本茶は海外に輸出されるようになり、福寿園は貿易茶の産地問屋として発展してきた歴史ももつ。200年以上にわたって看板を守ってきたのは、ひとえに茶の目利きとして高い信頼を得てきたからこそ。使い込まれた拝見盆はその象徴の一つといえるだろう。同じ土地、同じ畑で、同じように育てた茶でも、年ごとに味は異なり、それを吟味し、正しい評価と値をつけることは、茶農家に対しても、消費者に対しても責任は重いと吉永さんはいう。

作り手と買い手をつないできた福寿園にとって、日本茶のおいしさと文化を広めることは大きな命題であり、その拠点の一つとなっているのが、四条通富小路にある京都本店だ。お茶の販売はもちろん、宇治茶とフランス料理が楽しめるレストランやカフェ、本格茶室や茶道具をそろえたフロアを備え、とくに地下1階は宇治茶のオリジナルブレンドを作ることができる工房として人気が高い。チーフの伊藤明子さんは、日本茶インストラクター・リーダーの資格をもち、「お一人ずつ、お茶の好みや味のイメージについてカウンセリングするところからからはじめ、単一品種ごとの味や香りをテイスティングしていただき、ブレンドしていきます」と説明してくれた。ここでももちろん拝見盆が使われており、100gからオーダーメイドできる。ブレンド体験やおいしいお茶の淹れ方講座なども開催されている。

プロ仕様の機器がずらりと並ぶなか、カウンターに置かれた家庭用の電気ポットが気になり尋ねてみると、「本当は釜でお湯を沸かし、柄杓で汲んでお茶を淹れるほうが雰囲気は出るのですが、それではせっかく淹れ方のコツをお伝えしても、ご家庭に帰られてから再現しづらいと思うので」と伊藤さんは親しみやすい笑みとともに答えてくれた。

繊細な味を楽しむ日本茶を扱うからこそ、商いに、また人にも細やかであろうとする。そんな姿に改めて老舗の看板の重みを感じた。

福寿園京都本店の地下1階。
工房ではオリジナルブレンドティーをオーダーメイドできる。

工房にはプロ仕様の拝見場が設けられ、拝見盆を使い、
茶の色や香りを確かめる。

株式会社 福寿園 京都本店

京都市下京区四条通富小路角
TEL.050-3152-2901

四条 昔語り
history of shijo

夜な夜な彷徨う鎧武者の亡霊と、まち歩きのすすめ

このまちにまつわるエピソードを綴る昔語り。
まだ人々の記憶のうちに留まっている思い出から
まちと人の歩みを語り継ぎます。

本能寺の変と学校の怪談

高校生のころ、二年上の女子生徒から聞かされた話がある。学校に亡霊が出るというのだ。

私の母校・京都市立堀川高等学校は、四条繁栄会の商店街から少し西、堀川通に面した錦小路の角にある。京都の人ならご存じの方も多いと思うが、堀川高校は旧本能寺跡に建っており、学校の東側、蛸薬師通と小川通の角には本能寺跡の石碑も建てられている。NHKの大河ドラマ『麒麟がくる』の、まさにクライマックスの舞台というわけだ。

本能寺の変が起こった地ということもあってか、わが校を夜な夜な彷徨する亡霊は鎧に身を固めた武者だという。信長を警護していた織田方か、はたまた返り討ちにあった明智の武将か、想像がふくらむ。聞けば鎧武者の伝説は、堀川高校の前身である旧制堀川高等女学校時代から伝えられているとのこと。全国どこの学校にも「おばけ話」や「七不思議」はつきものだが、千年の都・京都は、千年分の怨念や恨みが吹き溜まっているのか、怪談を一つとっても誰もが知るような歴史に裏打ちされたものが多く、立地的にもやけにリアリティがあって興味を惹かれる。高校生だった私も鎧武者の話に興味津々で、なんとかこの目で確かめたいものだとチャンスを待っていた。

そして意外と早くにその機会は訪れた。秋の文化祭で私が所属する山岳部が唯一の運動部として展示を行うことになり、

京都市立堀川高等学校旧校舎。戦前に建てられたこの校舎は平成11年（1999年）に建て替えられた（京都市教育委員会提供）

市内の各大学から借りたヒマラヤの写真や山の道具を集めて公開することになった。貴重なものばかりなので、盗難防止のため、学校側に文化祭前夜の宿泊許可を取ったのだ。山岳部だけに宿泊用具はお手のもの。私を含め三人がその任につき、鎧武者が徘徊するという真夜中を待った。

午前二時、世に言う丑三つ時に、私たち三人は懐中電灯を片手に、ナタや山刀をもう一方に持ち亡霊が出るという教室へ向かった。当時の校舎は戦前の女学校時代から続く古い三階建で雰囲気は満点。北側一階の東西に並ぶ教室のうち中央の部屋に「出る」という。

ガラス窓越しに教室内がよく見える廊下に陣取り、凝視すること一時間余り。待てど暮らせど何事も起こらず、しびれを切らした私たちが現場を去ろうとしたそのときだった。室内から男の大きなウナリ声が聞こえてきたのだ。あまりにも突然で、三人はともに持っていたものを放り出して我先にその場を逃れた。

寺町御池の本能寺には信長公廟があり、信長の自刃後、
三男信孝によって建てられた供養塔が伝わっている。

明かりのついた展示室に戻り、あれは動物の鳴き声とは違う、確かに男の声だった、と三人で確認し合うとさらに怖さが増した。半世紀以上が経ったいまも、それが何だったのかはわからない。現在は校舎も新しく近代的なものに建て替えられ、この亡霊の話を知る人もほとんど居なくなった。すべては謎のままだ。

路地にひっそりと立つ「本能寺跡」の石碑。

まちに伝わる摩訶不思議

天正10年（1582年）の本能寺の変で焼失した寺は、その数年後に再建され、豊臣秀吉の命で現在の寺町御池に移された。このあとも天明の大火や蛤御門の変などでたびたび火災に見舞われたことから、本能寺の「能」の字は「𠮟」と書かれるようになった。「ヒ」が重なるのを避け、災いが「去」るようにという思いが込められているという。寺町商店街に面した総門は国の登録有形文化財に指定されていて、境内には信長公の供養塔がある。石塔の下には信長愛用の刀が眠っていると伝わっており、宝物殿にはゆかりの品も集められていて見どころも多い。

もしお参りの機会があれば、ぜひ本堂前にある銀杏の大木にも注目してほしい。蛤御門の変の火災時に、この木が水を噴き出して火を消したという逸話があるそうだ。まちをちょっと歩けば、いたるところで摩訶不思議な伝説に突き当たる。だから京都のまちは面白い。［文／四条繁栄会商店街振興組合・滝川一］

モットーは明るく前向きに

平成30年10月1日の朝は台風一過の清々しい晴天でした。新任地である京都マルイに着任した日です。副店長として社内だけでなく、社外での活動も私の仕事です。自分にとって故郷の京都、「ただいま」という気分が、令和2年5月末で閉店してしまうというニュースで「ガッカリ」になりました。しかし、閉店するまで全スタッフがイキイキと働いてもらう為に、まず自分がイキイキと働かなければと思いました。でもどうすればよいかわかりません。悩むよりまず行動!社内でも社外でも、やれる仕事はなんでもやろうと決心しました。

四条繁栄会では、事業委員を拝命致しました。(これも「なんでもやる」なら楽しくやろうと思っていました)最初は「万引防止キャンペーン」でティッシュ配りでした。(これはあまり楽しくやれませんでした)委員会活動にやりがいを感じ、積極的になれたのは、祇園祭のおかげです。後祭の花笠巡行で、給水所の設置を八坂神社から依頼され、どうするかが委員会の議題になりました。前祭の給水所ご奉仕は人海戦術で行っていましたが、今回初めての後祭の人手は十数人しかいません。千人単位の方々にご奉仕するのは無理ではないかという重苦しい雰囲気に、長田副理事長や村田委員長も困った様子…。少人数でもウォーターサーバーをリースし、テーブルと紙コップだけ用意すれば出来ると思い、「調べたい」と提案して皆さんの許可を得ました。屋外での使用実績があり、機械のリース代、配送や引取りも無料の会社をやっと見つけ、皆さんに運営方法と見積もりを提案し、「OK」を頂けた時はホッとしました。いよいよ迎えた当日は、晴天で最高のお祭り日和です。皆さんのフットワークが良く、給水も順調♪順調♪

花笠巡行の合間を見て、四条河原町の交差点のどまん中で、山や鉾の辻回しも堪能させて頂きました。役得♬役得♬このことがきっかけで、委員会の皆様だけでなく、他の理事の方からも色々と声を掛けて頂けるようになりました。

この他にも、マルイの店頭で行われたサンガのキッズチアリーディングパフォーマンスや、祇園祭の1150年記念の提灯行列、また蛭子社祭においては福笹作りのご奉仕、店頭での福笹受取り…目立つビブスを着て、客引き禁止パトロールもありました。「誰かの為になっている・役に立っている」という気持ちが、「やりがい・働きがい」なんだということを強く感じました。商店街事業で行った宝塚への観劇や福娘の公募では、当店のスタッフが「行って良かった」「参加して良かった」と、喜んでくれたことも嬉しかったです。

会社の中だけでは得られない、沢山の貴重な経験・思い出をありがとうございました。「新コロに打ち勝つ町衆ここにあり」今は厳しい状況が続きますが、この町の賑わいは必ず復活すると信じています。だって京都NO.1の商店街ですから！

追伸：また必ず戻ってまいります。お墓もこちらなので(笑)

京都マルイ　増井 孝至

歴史と“ご近所づきあい”する商店街

なぜメガネショップが京町家に?という疑問は、歴代の店長が幾度となく聞かれた質問だろうと思います。以前から当社は、ヨーロッパの洗練やそこに伝わるクラフトマンシップを企業イメージのベースにしてきましたが、そのなかで先代社長の肝入りで2007年に誕生したのが、四条烏丸店です。パリと同等、いえそれ以上の文化をもつ京都で店舗を展開するなら、まちへのリスペクトを込めたものにしたいという思いがあったのだろうと私は感じています。

京都の歴史的背景、そして四条通というまちのブランドをお借りして看板を上げているわけですから、それに応える店でなければなりません。当社はもともとアフターケアに力を入れていますが、そこへ“四条流”のゆったりしたお客様とのやりとりを大切にしようと心掛けてきました。幸い買い物や通勤の足で気軽に訪ねていただける立地ですので、当店のカスタマーサービスを気に入ってくださっているお客様も増えつつあります。

町家のオーナーは茶道具「菊光堂」さんで、奥に鎮座する蔵にはその名がそのまま掲げられている。

3年前に続き、昨年の祇園祭にも長刀鉾の曳き手として参加。中央が筆者。

商売以外にも何かお役に立てればと思い、1月の蛭子船巡行や節分の豆まき、祇園祭といったまちの行事にも店長が参加させていただいています。

先代店長に倣って3年前、私も長刀鉾の曳き手をさせていただいたのですが、わらじどころか足袋もほとんど履いたことがなく、暑い巡行路に最後はヘトヘトになってしまいました。けれどこれが思わぬ爽快感があったのです。四条河原町での辻回しでは、見物客から「おおっ!」という大歓声が上がります。あれはサッカーをやっていた学生時代、チームプレーが決まったときの達成感に似たものがあります。見物するだけのものだと思っていた祇園祭に参加できたのは幸運以外の何ものでもなく、そのうえまちの人、とくに商店街のみなさんとも仲良くなり、これを機に顔見知りになった方もたくさんいます。“ご近所づきあい”がこんなに大切なものなのかと、お祭りに教えてもらった気がします。京都というブランドに決してあぐらをかかないみなさんの姿勢を見て、自分ももっと成長していければと思っています。

メガネの三城　PARIS MIKI四条烏丸店
店長　河内 慎也

おしらせ

京の歳時記

京都には、長い歴史と文化から育まれた
季節感のある祭が数多くあり行事が営まれています。
その中から、京都をより知り、味わえるよう
11月から6月までの祭と祭事を選びました。

11月 霜月

■御香宮火焚祭
15日／御香宮神社／近鉄電車「桃山御陵前」／☎075-611-0559

■法住寺　身代不動尊大祭
15日／法住寺／市バス「博物館・三十三間堂前」／☎075-561-4137

■地主神社 もみじ祭
23日／地主神社／市バス「五条坂」／☎075-541-2097

12月 師走

大根焚

■北野天満宮 献茶祭
1日／北野天満宮／市バス「北野天満宮前」／
☎075-461-0005

■了徳寺　報恩講　大根焚
9日・10日／了徳寺／市バス「鳴滝本町」／
☎075-463-0714

■安井金比羅宮　終い金比羅祭
10日／安井金比羅宮／市バス「東山安井」／
☎075-561-5127

■事始め
13日／花街・祇園など／京阪電車「祇園四条」

■法住寺　義士会法要
14日／法住寺／市バス「博物館三十三間堂前」／☎075-561-4137

1月 睦月

■六波羅蜜寺　皇服茶授与
1日～3日／六波羅蜜寺／市バス「清水道」／☎075-561-6980

■下鴨神社　蹴鞠はじめ
4日／下鴨神社／市バス「下鴨神社前」／☎075-781-0010

■上賀茂神社　白馬奏覧神事
7日／上賀茂神社／市バス「上賀茂神社前」／☎075-781-0011

■新熊野神社　左義長神事
15日／新熊野神社／市バス「今熊野」／☎075-561-4892

■城南宮　湯立神楽
20日／城南宮／市バス「城南宮東口」／☎075-623-0846

2月 如月

節分祭

■吉田神社　節分祭
2日～4日／
吉田神社
*他多数の神社で開催予定／
市バス「京大正門前」／
☎075-771-3788

**■世継上徳寺
世継地蔵尊大祭**
8日／世継上徳寺／
市バス205「河原町五条」／
☎075-351-4360

■伏見稲荷大社　初午大祭
3日／伏見稲荷大社／京阪電車「伏見稲荷」／☎075-641-7331

■知恩院　涅槃会
13日～15日／知恩院／市バス「知恩院前」／☎075-531-2111

■醍醐寺　五大力尊仁王会
23日／醍醐寺／地下鉄「醍醐」／☎075-571-0002

3月 弥生

はねず踊り

■貴船神社　桃花神事
3日／貴船神社／京都バス「貴船」／
☎075-741-2016

■虚空蔵法輪寺　芸能上達祈願祭
10日／虚空蔵法輪寺／
阪急電車「嵐山」／
☎075-862-0013

■清水寺　青龍会
14日・15日／清水寺／
市バス「清水道」／
☎075-551-1234

■誠心院　和泉式部忌
21日／誠心院／
阪急電車「京都河原町」／
☎075-221-6331

■隨心院 はねず踊りと観梅
28日／隨心院／地下鉄「小野」／
☎075-571-0025

*日程／場所／最寄り交通機関／問い合わせ
（変更になる場合がございますのでご注意ください）
*新型コロナウイルス感染拡大防止のため、急な日程変更・取りやめ等予定が変更になる場合がございますので、恐れ入りますがお出かけ前にご確認をお願いいたします。

4月 卯月

■松尾大社　例祭
2日／松尾大社／阪急電車「松尾大社」／☎075-871-5016

■護王神社　護王大祭
4日／護王神社／地下鉄「丸太町」／☎075-441-5458

■わら天神宮例祭　お弓祭
4日／わら天神宮／市バス「わら天神」／☎075-461-7676

■今宮神社　やすらい祭
11日／今宮神社／市バス「今宮神社前」／☎075-491-0082

■壬生寺　壬生狂言
29日～5月5日／壬生寺／市バス「壬生寺道」／☎075-841-3381

5月 皐月

■上賀茂神社　賀茂競馬会足汰式
1日／上賀茂神社／市バス「上賀茂神社前」／☎075-781-0011

■藤森神社　藤森祭
1日～5日／藤森神社／京阪電車「墨染」／☎075-641-1045

■新熊野神社 例大祭（神幸祭）
5日／新熊野神社／市バス「今熊野」／☎075-561-4892

■新日吉神宮　新日吉祭
9日／新日吉神宮／市バス「博物館三十三間堂前」／☎075-561-3769

■葵祭
15日／京都御所 → 下鴨神社 →上賀茂神社／
☎075-213-1717（京都市観光協会）

6月 水無月

貴船祭

■貴船神社　貴船祭
1日／貴船神社／京都バス「貴船」／
☎075-741-2016

■平安神宮　京都薪能
1日・2日／平安神宮／
市バス「京都会館美術館前」／
☎075-771-6114（京都能楽会）

■智積院　青葉まつり
15日／智積院／市バス「東山七条」／☎075-541-5361

ART

場所／日程／休館日／料金
*都合により変更になる場合がございます。悪しからずご了承ください。
*各催事について事前に新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止の観点からの注意事項や来館方法をお電話やホームページでご確認をお願いいたします。

●髙島屋京都店　グランドホール（7階）　☎075-221-8811

■没後70年　吉田博展
2021年1月5日(火)～18日(月)／10時～20時、最終日は17時まで（いずれも入場は閉場の30分前まで）／一般800円他　*「WEBでの日時事前予約」をご利用いただくとスムーズにご入場いただけます。

●京都国立近代美術館　☎075-761-4111

■展覧会　人間国宝 森口邦彦　友禅／デザイン ― 交差する自由へのまなざし
～12月6日(日)／火～木・日は9時30分～17時　*ただし金・土は20時まで（いずれも入館は閉館の30分前まで）／月曜・11月24日(火)休館（*23日(月・祝)は開館）／一般1000円他

■展覧会　分離派建築会100年：建築は芸術か?
2021年1月6日(水)～3月7日(日)／開館時間は上記と同じ／月曜・1月12日(火)休館（11日(月・祝)は開館）

●京都国立博物館　☎075-525-2473

■御即位記念　特別展　皇室の名宝
～11月23日(月・祝)／9時30分～18時（入館は閉館の30分前まで）／月曜休館（*23日(月・祝)は開館）／一般1800円他　*観覧にはオンラインで「日時指定券+観覧セット券」の購入が必要です。

■文化財保存修理所開所40周年記念　特別企画　文化財修理の最先端
12月19日(土)～2021年1月31(日)／9時30分～17時（入館は閉館の30分前まで）／月曜休館（*2021年1月11日(月・祝)は開館）、12月29日(火)～2021年1月1日(金・祝)、1月12日(火)休館／一般700円他

■新春特集展示　丑づくし ― 干支を愛でる ―
12月19日(土)～2021年1月31日(日)／開館時間・休館日・観覧料は上記と同じ

■仏教美術研究上野記念財団設立50周年記念 特別企画
新聞人のまなざし ― 上野有竹と日中書画の名品 ―
2021年2月2日(火)～3月7日(日)／9時30分～17時（入館は閉館の30分前まで）／月曜休館／一般700円他

■日本書紀成立1300年記念　特集展示　国宝「日本書紀」と東アジアの古典籍
2021年2月4日(木)～28日(日)／開館時間・休館日・観覧料は上記と同じ

コラム

歌舞伎のまち・四条

『時今也桔梗旗揚』（ときはいまききょうのはたあげ）

「馬盥（ばだらい）」に注がれた酒を干し耐えに耐えた男の選んだ道は

寺町のアーケードに面した本能寺の山門

桔梗とは明智光秀の家紋を指し、光秀による下剋上の旗揚げを描いた作品の一つ。別名『時桔梗出世請状（ときもききょうしゅっせのうけじょう）』、通称『馬盥の光秀』として知られ、作者は四世鶴屋南北、文化5年（1808年）に初演されました。それまでの浄瑠璃『祇園祭礼信仰記』『三日太平記』『絵本太功記』などから光秀が織田信長を本能寺で討つまでのいきさつを中心に脚色しています。

天下統一にあと一歩と迫る小田春永（織田信長）は、太政大臣に任ぜられ、勅使饗応の役を武智光秀（明智光秀）に命じます。ところが光秀は春永の怒りを買い、森蘭丸に鉄扇で額を打たれて蟄居を命じられてしまいました。中国・毛利攻めの途上、春永が本能寺に着陣した折に、光秀は目通りを許されますが、その席で春永は馬に用いる大きな盥に注いだ酒を光秀に飲ませます。恥辱に耐える光秀でしたが、最後に流浪していたときに売った妻の切髪を渡され、密かな決意を心に秘めて愛宕山の宿所へ去ったのでした。その夜、宿所に春永の上使が訪れ光秀に上意を伝えます。光秀は辞世の句を詠み、切腹すると見せかけて上使を切り捨て、春永を討ち取るべく本能寺へ向かいます。このあと、山崎の合戦で敗れ、小栗栖村にかくまわれる光秀の姿なども描かれていますが、近年では饗応、馬盥、愛宕山の三場だけが上演されます。

馬盥の舞台となった本能寺は現在、寺町御池にあり、境内の大宝殿には信長ゆかりの品が集められているほか、2021年1月31日までは特別展『本能寺の変と天下人たち』を開催中です。

また、南座では恒例の「吉例顔見世興行」が12月5日から始まります（詳細下記）。新型コロナウイルスの影響で開催が心配されていましたが、例年の昼夜2部制から3部制への変更、期間短縮など感染予防策を講じた異例のかたちで行われることが決まりました。人間国宝・片岡仁左衛門や中村鴈治郎、松本幸四郎など名優がそろい踏み、師走の四条のまちにおなじみのにぎわいが帰ってきます。

南座 公演案内

當る丑歳 **吉例顔見世興行** 東西合同大歌舞伎

●期間：12月5日（土）～12月19日（土）
※12月11日（金）休演

●開演時間、演目：
第一部（10：30開演）
『操り三番叟』『傾城反魂香』
第二部（14：30開演）
『寿二人猩々』『熊谷陣屋』
第三部（18：40開演）
『末広がり』『廓文章 吉田屋』

●料金（税込）：
〈一等席〉16,000円　〈二等席〉8,000円
〈三等席〉4,000円　〈特別席〉17,000円

●お問い合わせ／京都・南座
TEL.075-561-1155

●一般電話予約／チケットホン松竹
TEL.0570-000-489（ナビダイヤル）または
TEL.06-6530-0333
ナビダイヤルは一部交換機種などの設定によってはかかりません。
（受付時間／10:00～17:00）

※この情報は2020年10月20日現在のものです。
変更になる場合があることをご了承ください。

四条のまちの、いま昔。
セピア色の懐かしい写真で綴る思い出ミュージアム。

市民が集い、憩うた「円山公園」の乗馬場とラジオ塔

【写真①】かつて円山公園にあった乗馬場。昭和40年前後の撮影。

【写真②】円山公園のひょうたん池から望む初代「祇園枝垂桜」。
撮影時期は不明だが、公園で憩う人々には着物姿が多い（京都府立京都学・歴彩館蔵／黒川翠山撮影写真）

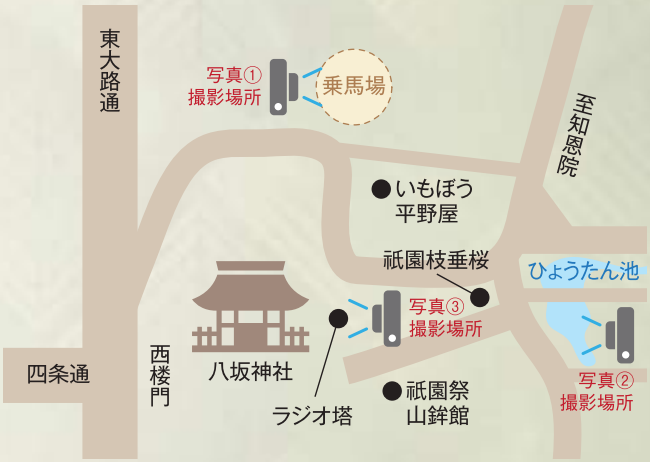
観光客向けのガイドブックなどでは桜の名所、花見スポットとして紹介されることが多い円山公園ですが、京に暮らす人々にとっては、まちのすぐそばにある緑地であり、憩いの庭。一帯は平安時代から風光明媚な地として知られ、明治19年（1886年）に「京都円山公園」として開設。京都市内で最も古い公園です。

円山公園といえば祇園枝垂桜が有名で、写真②に写る初代枝垂桜は江戸享保年間に植えられたといわれています。残念ながら昭和22年（1947年）に樹齢200年超で枯れてしまい、現在は二代目。桜守・佐野藤右衛門氏が率いる植藤造園が手入れを続けています。

「覚えている人はわずかになりましたが、昔ここに乗馬場があったんですよ」と話してくれたのは四条繁栄会の生き字引の一人・扇子豊氏。調べてみると、長岡京の競馬場で騎手をしていた人物が京都の撮影所や祭に使役する馬の世話をする傍ら、一般にも広く乗馬が体験できる馬場を設けていたそうです。昭和45～46年ごろまで営業し、その後、新駒茶寮という茶屋を経て、現在は廃業されています。同じく四条繁栄会組合員の手元には、乗馬を楽しむ写真が残っています。「祇園のまちで育った私の妻は、幼いころ暇さえあれば親にせがんで馬に乗りに行っていたそうです」とのことで、四条界隈の人々にとっていかに身近な娯楽の地だったかがわかります。

また、扇子氏がもう一つ案内してくれたのが枝垂れ桜の西側にひっそりとたたずむ「ラジオ塔」。これはラジオが高価だったころ、より多くの人が放送を聴けるよう普及目的で全国各地に設置された街頭ラジオの一つです。円山公園には昭和7年（1932年）に建塔され、朝になると三々五々、人々がここへ集まり、体操を楽しんでいたとか。残念ながら戦時中に資材として供出されたため、現在残っているのは昭和57年（1982年）に修復されたものです。

【写真③】枝垂桜の西にある「ラジオ塔」。現在は使われておらず、記念碑として残されている。



四条 わがまち、わが店のおもてなしをご紹介

おもてなし百彩

長刀鉾町・立売西町（なぎなたほこちょう・たちうりにしちょう）

祇園祭の山鉾巡行で先頭を行く長刀鉾。その鉾町であることが町名の由来となっていて、四条通に面して長刀鉾の町会所がある。また「立売」とは店棚を構えず道路上や軒下などで品物を販売すること。四条立売は鎌倉・室町時代に市場街として発展した。

歴史ある四条烏丸の地で課題解決のパートナーとして

「みずほ銀行京都支店」の歩みを遡れば、明治27年（1894年）から四条烏丸の地にルーツがあることがわかります。京都の中心街にあるターミナル店舗として、高齢者や学生、外国人などさまざまな人が来店し、毎月第二土曜日には一般向けに「休日の資産運用相談会」を開催。法人では歴史ある老舗企業から、スタートアップ企業まで幅広く取引を行っており、近年では事業承継等に関する相談も増えているとか。いまも昔も変わらず、時代とニーズに寄り添った提案を行ってくれる「課題解決のパートナー」です。

京都支店は交通至便なターミナル店舗。

みずほ銀行京都支店

京都市下京区四条通烏丸東入ル長刀鉾町20
TEL.075-221-7291
【営業時間】窓口／平日9:00～15:00
【URL】https://www.mizuhobank.co.jp

京都・伏見から発信する独創的・魅力的な酒造り

人気のスパークリング清酒「澪」。

宝酒造の酒造りの歴史は、江戸後期の天保13年（1842年）、京都・伏見での清酒造りに始まり、現在では清酒・焼酎、本みりんなど、日本の伝統的な酒類・調味料である「和酒」を中心に、技術に裏付けられた安全・安心な商品を提供しています。

お米生まれのほのかな甘みとほどよい酸味が楽しめるスパークリング清酒「澪」や、キレ味爽快な辛口チューハイ「タカラ　焼酎ハイボール」など、独創的で魅力的な商品を世に送り出し続けています。

宝酒造株式会社

京都市下京区四条通烏丸東入ル長刀鉾町20
TEL.075-241-5110
【URL】https://www.takarashuzo.co.jp

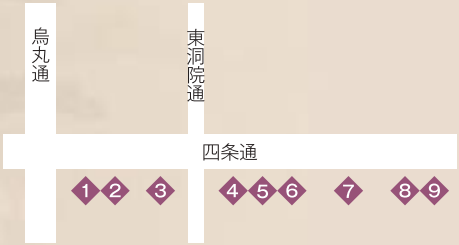
お買い物のその足で食と美を楽しみに

地下鉄四条駅すぐ、四条通の南側に位置する「四条ビヨンドビル」。地下1階から地上9階のフロアには、イタリアンバル「KayaBar Tino」や「エクセルシオールカフェ」、脚やせ専門エステ「リフィート」、美容皮膚科「大西皮フ科形成外科医院」などがあり、食と美が集うスポットです。

2008年開業の四条ビヨンドビル。

四条ビヨンドビル

ビヨンドワン株式会社
京都市下京区四条通烏丸東入ル長刀鉾町31
TEL.075-257-3777



1. みずほ銀行京都支店
2. 宝酒造株式会社
3. 四条ビヨンドビル
4. 甲南チケット 四条烏丸店
5. ヤスダビル
6. Le Dome京都店（EDIFICE／IENA）
7. すき家 四条店
8. GALLARDAGALANTE 京都店
9. メガネの三城　PARIS MIKI四条烏丸店

買い物、お出かけの前に お得なチケットを

賢く買って、お得に買い物を。

黄色い看板でおなじみの金券ショップ「甲南チケット」。四条烏丸店は買い物やお出かけ、観光、観劇の前に立ち寄るのに便利なこともあり、ディスカウントチケットなどを買い求める人が途切れることがないほど。各種商品券や、京都市内の観光に便利なトラフィカ京カード、地下鉄・バス1日券、食事に利用できるジェフグルメや新幹線回数券、各種入場券などが人気があります。

また、各種商品券・JR券・株主優待券なども高価買取してくれます。

明治から令和へ 四条通の歩みとともに

四条通のアーケードに面して建つ「ヤスダビル」。運営・管理する「ヤスダ徽章株式会社」は、トロフィーやカップ、メダル、表彰楯、旗や銘鈑、エンブレムなどを数多く取り扱っていることで知られています。令和改元の際、四条通にずらりと掲げられた奉祝旗も同社が手掛けたものです。明治のころから先代まで、現在ビルのある地に自宅と店舗を構えており、四条通の移り変わりを見守ってきた1軒でもあります。

四条通東洞院東入ル
南側にあるヤスダビル。

ヤスダ徽章が手掛けた
四条通の奉祝旗。

フレンチマインドを通して 洗練されたスタイルを

四条通に面したエントランス。

2010年、四条通にオープンした「Le Dome京都店」は、フレンチをコンセプトにしたメンズブランドの「EDIFICE」と、レディースの「IENA」をそろえる店舗。パリの姉妹都市である京都は、直営路面店を構えるのに外せないまちであり、四条はブランドの魅力を発信するのに最適な場所といいます。四条烏丸はビジネス街ということもあり、EDIFICEはとくに30～40代の大人の男性に人気が高く、休日に楽しむ品の良いカジュアルウエアやビジネスシーンに映えるドレスウエアなど幅広く商品展開されています。

甲南チケット 四条烏丸店

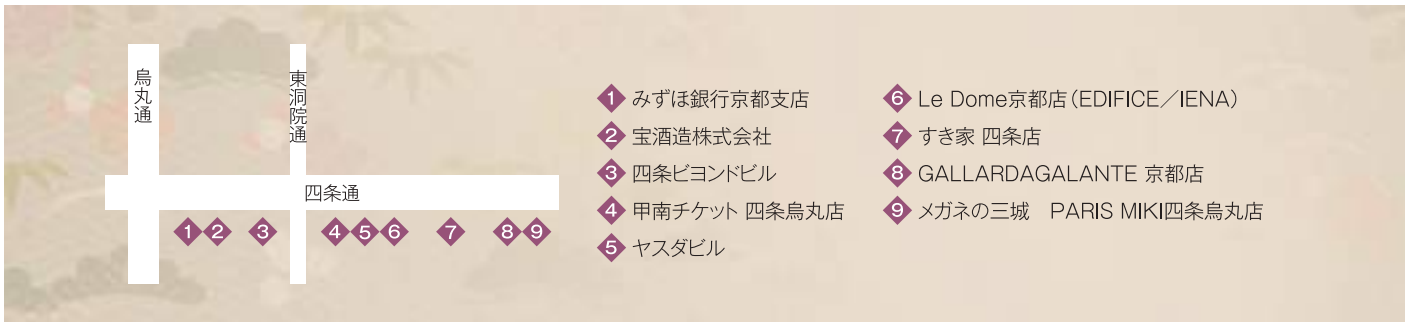
京都市下京区立売西町59　てんぐビル1F
TEL.075-229-3088
【営業時間】10:00～19:00 日祝10:00～18:00 無休
【URL】https://www.kounan.com/

ヤスダビル

ヤスダ徽章株式会社
京都市中京区麩屋町通丸太町下ル
TEL.075-241-0035
【URL】http://www.y-kisyou.co.jp/

Le Dome京都店（EDIFICE／IENA）

京都市下京区四条通高倉西入立売西町63-1大城戸ビルディング
TEL.075-253-1753（IENA）／075-253-1750（EDIFICE）
【営業時間】11:00～20:00 不定休
【URL】https://www.baycrews.co.jp/



24時間営業で テイクアウトもおまかせ

「すき家四条店」がオープンしたのは2000年。以来、便利な立地ということもあり、老若男女問わずさまざまな客層に利用されています。牛丼をはじめ、メニューもサイズも豊富で、自分の好みに合わせて選ぶことができます。テイクアウトメニューも充実していて、仕事や買い物の足で気軽に立ち寄れるのもうれしいところ。手軽な価格なのはもちろんのこと、安全でおいしい食事を届けるのはすき家のモットー。新型コロナウイルスへの対策も徹底されています。ICカードやクレジットカード、QRコード決済など、多様なキャッシュレス決済にも対応してくれます。

女性にも人気の「牛丼サラダセット」。

上質に出会う心地よい空間 関西唯一の路面店

アーケードに面したディスプレイ。

四条通にある「GALLARDAGALANTE 京都店」は、2014年にオープンした関西唯一の路面店。上品なしつらえの店内は、時間を気にせずゆったり買い物を楽しむことができ、親子二世代で通う人もあるとか。長く愛せるタイムレスなデザインのオリジナルアイテムに加え、シーズンイメージに沿って世界中からバイヤーが買い付けたインポートアイテムもそろいます。上質と洗練を知る大人のワードローブに欠かせないベーシックアイテムから、ほんのりスパイスを利かせた“いま”を感じるトレンドアイテムまでラインナップも豊富。ここに来ればきっと新しい発見があるはずです。

最新の人気モデルをそろえ アフターケアも充実

京町家の趣を残した店内に、ゆったりディスプレイされたフレームの数々。2007年にオープンした「メガネの三城　PARIS MIKI四条烏丸店」は、一流のクラフトマンが手掛けた逸品から、機能性に優れた商品まで品揃えが多彩。写真は鯖江の職人による「BJクラシック」（右）と、軽い掛け心地の新素材メタルパットを使った自社オリジナル「DIGNAクラシック」（左）。俳優や著名人が身に付け、話題となっているモデルもいち早く店頭に並ぶことでトレンドに敏感な人にも人気が高く、充実したアフターケアも大きな魅力です。

職人の手による洗練されたデザイン。

すき家 四条店
京都市下京区四条通高倉西入ル立売西町67
【営業時間】24時間 無休
【URL】https://www.sukiya.jp

GALLARDAGALANTE 京都店
京都市下京区四条通高倉西入ル立売西町72
TEL.075-231-8617
【営業時間】11:00~20:00
【URL】http://www.gallardagalante.com

メガネの三城 PARIS MIKI四条烏丸店
京都市下京区四条通高倉西入ル立売西町74-1
TEL.075-211-8272
【営業時間】11:00~20:00
【URL】https://www.paris-miki.co.jp/

インフォメーション 四条

四条繁栄会の事業

アーケード装飾「四条 洛中洛外雲海図」

11月1日(日)～1月15日(金)

昨年度から冬のアーケード装飾が新しくなりました。京都の人々の暮らしや風俗が色濃く描かれた「洛中洛外図」をもとに、現在の四条通を行き交うお客様も洛中洛外図の人々のようにイメージした装飾です。LEDのカラフルに発光する「雲パネル」を四条通のアーケード下約1km(烏丸ー四条大橋西詰の北南両側)に吊下げます。四条通にお越しの際は、ぜひ洛中洛外図に参加している気分でお楽しみください!

令和元年度の年末年始装飾

「四条通地区地区計画の変更に関する要望書」を京都市へ提出

四条繁栄会は、魅力的な歩行者空間の拡充を推進し「風格と華やぎ」のある環境と景観を守っていくために組合員や地権者等の皆様と説明会を重ねてまいりました。その合意のもとに、四条通に出店しようとする宿泊施設には一定の条件を課し、インターネットカフェ等を規制する要望書を令和2年3月17日に京都市に提出しました。

その後、京都市において地区計画の変更に関する都市計画決定が行われ、令和2年10月27日に京都市会で条例が可決されました。

これからも、たくさんの方に「四条に来て良かった」と喜んでいただけるような魅力ある街づくりを進めてまいります。

情報誌「四条」次号発刊について

次号の発行時期につきましては、決まり次第、四条繁栄会のホームページでお知らせいたします。

四条繁栄会ホームページ
https://www.kyoto-shijo.or.jp

information shijo